警察官(鑑識)

「被害者のため」という強い想いが厳しい仕事の原動力になっています

警視庁 刑事部 鑑識課 現場写真係 巡査長

Q:鑑識とはどういう仕事ですか?

A:事件が起きたら刑事と鑑識が現場に直行し、犯人逮捕のために一丸となって動きます。刑事は被害者などから事情を聞き、鑑識は証拠になりそうなものを採取します。刑事の目、鑑識の目という2つの目から事件を凝視し、どうすれば犯人を捕まえられるかを一緒に考え、行動していきます。

以前私は城東署の鑑識係にいましたが、そこは人数が少なかったため、現場では1人ですべての鑑識活動をしていました。指紋や足跡、またDNA鑑定の資料となる毛髪や血液などを採取したり、現場の状況を写真に収めました。現在は本庁の鑑識課で現場写真を担当しています。現場の状況をありのままに記録するために36枚撮りフィルムを3〜4本撮ります。大きいものから小さいものまで、また暗い場所や明るい場所など様々な状況をフィルムに収めるため、毎回頭を悩まし、苦心の連続です。

本庁は殺人事件や強盗など大きな事件を扱うため鑑識活動の時間も長く、城東署の時は2時間程度でしたが、ここでは4時間ほど。現場保存のため、髪の毛一本、汗一滴たりとも落とせません。つねに帽子にマスク、ゴム手袋、靴カバーといった格好なので、夏場は暑くて大変です。

Q:印象に残る事件はありますか?

A:城東署管内で接骨院に泥棒が入る事件があった時、私が採取した証拠が犯人逮捕に直接つながりました。現場には被害者のものも含め数多くの痕跡があるため、すべて採取していたら切りがなく、犯人がどう動いたのかを想像し、目星をつける必要があります。その時もたくさんの足跡があったのですが、それぞれをじっくり見て、動きの不自然なものに絞って採取したことがいい結果につながったのだと思います。

Q:ふだんどんな気持ちで現場に立つのですか?

A:現場は毎回違うし、凄惨な状況にくじけそうになることもあります。そんな私を支えているのは「被害者のために何としてでも犯人を捕まえたい」という強い気持ちです。警察は犯人逮捕までしか貢献できませんが、しかし被害者のために何とかそこまでは頑張らねばと思うのです。幸いにも警察はチームプレーですから、一人が追い詰められることはありません。協力して目標に向かえる点はすばらしいと思います。

Q:警察官になって最初のお仕事は?

A:最初は城東署で交番勤務をしていました。パトロールをしたり、交通整理をしたり、通報があれば駆けつけるといった地域に密着した活動です。警察官になって意外だったのは、人と会話をする機会が多いこと。道を聞かれたり、落とし物が届けられたり、物を盗られたと被害届けが来るなど、市民の方々とのやりとりが頻繁にあり、相手の年代や立場が様々なので、当初は言葉遣いに苦労しましたね。

Q:鑑識にはもともと興味があったのですか?

A:警察に入り警察学校で学んだ時に、警察内の職場を見学する機会があり、一番興味をもったのが鑑識の仕事でした。手と頭を使って科学的に犯人を割り出していく作業が、もともと理系で実験好きな自分の性に合うと直感したのです。そこで鑑識になれるよう努力しました。交番勤務の私は当時「地域課」所属でしたが、あこがれの鑑識係は「刑事課」。そのため刑事課の人々に認めてもらえるよう事件が起きればすばやく出動し、現場で率先して動き、貢献を惜しみませんでした。そうした努力が報われ、運よく鑑識係へ異動できました。

Q:警察官を目指す人に向けてメッセージを

A:もしかしたら世の中には「嘘」や「ごまかし」が必要な仕事もあるのではないでしょうか。その点、警察官に嘘は不要です。自分の信じるとおり、徹頭徹尾、正義を貫くことができます。そういう仕事に憧れる人にはおすすめだと思いますね。

■なるには?

警察組織は主に警察庁と都道府県警察本部とに分かれる。警察庁に入るには国家公務員試験を受験する必要がある(21ページ「なるには?」参照)。都道府県警察本部に入るには、各都道府県で行われる警察官採用試験を受験する。大学卒業程度、高校卒業程度など2〜3区分で採用するところが多い。身体要件もある。

●恒石さんの標準的な1日(当番)

8:30 出勤

事件が起きればすぐ出動。出動しない時は撮影した写真の現像や撮影の練習、準備などをしている

夜間は交代制となり、仕事(2〜3時間)→休憩(2時間)→仕事というサイクルで当番に当たる。連続して眠ることはできない

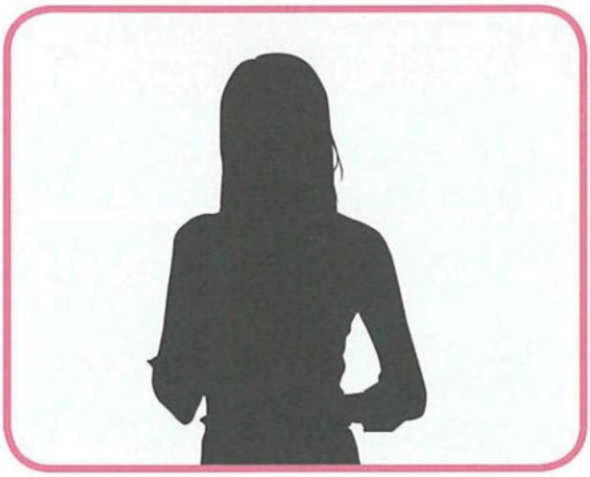
9:30 退庁

麻薬取締官

捕まえてくれてありがとうと本人に感謝される。薬物は恐ろしいのです

厚生労働省 関東信越厚生局 麻薬取締部
T・Y氏

30代女性。勤続12年目。公立高校卒。私立大学経営学部卒。同大学院修了。国家公務員Ⅱ種に合格し麻薬取締官に。薬物捜査を長く担当した後、別の省庁に出向。今年から本部署に戻り国際情報を担当。薬物の多くは海外から来るため、国際情報の収集も重要な任務。



Q:薬物捜査とは、どんなことをするのですか?

A:人々からの投書や相談などを私たちは端緒(たんちょ)と呼んでいますが、それらがきっかけとなり捜査がスタート。まず被疑者(容疑者)の行動を監視して犯罪を裏付けるようなものを探す内偵捜査を行います。時には一日中尾行したり、数日間張り込みをしたりと、体力的にとてもきつい仕事です。そうやって容疑が固まれば裁判所に捜索差押令状を請求します。そして令状に従って家などを捜索(ガサという)し、実際に薬物などが証拠としてみつかれば被疑者を逮捕。検察庁に送致し、私たちが取り調べを行います。取り調べは10日間にも20日間にも及ぶことがあり、非常にタフな精神力が要求されます。嫌疑が十分であれば検察官が被疑者を起訴。そこまでが私たちの仕事です。

Q:警察官と同じようなお仕事に聞こえますね

A:私たちは「特別司法警察員」といって、薬物捜査に限っては警察と同様の権限があり、手錠や拳銃、身分証明証も持っています。その点では同じですが、仕事は少し違います。警察が扱う犯罪は窃盗にしろ傷害にしろ被害者がいます。被害者が警察に被害を訴えるところから捜査が開始されるので、警察が関わる時点でその事件はある程度進んでいます。ところが薬物犯罪は「被害者なき犯罪」といわれ、ゼロからのスタートです。だから難しいし、パワーも必要。でもその分、また違う魅力があるように思います。

Q:どうして世の中には薬物に走る人がいるのでしょう?

A:私が知る被疑者の多くは、人に「誘われて」薬物に手を染めています。恋人に勧められたとか、たまたま悪い友人がそばにいたとか、ほとんどの人が誰かの誘いに乗り、軽い気持ちで始めるのです。その時に手を出しさえしなければ、ここまで悲惨な人生を歩むことはなかっただろうに——そう思わざるを得ない被疑者を私は何人も見てきました。だから皆さんには、「誘いには絶対乗るな」と言いたい。好奇心があるのは結構ですが、やってしまえば元も子もありません。正しい知識をもったうえで、断る勇気をもっていただきたいですね。

Q:なぜ麻薬取締官という仕事を選んだのですか?

A:ひとことで言えば好奇心ですね。もともと薬物については知識も特別な関心もない、ただの経営学専攻の学生でした。それが国家公務員Ⅱ種試験の合格で変わりました。省庁を選ぶためにパンフレットを見ていて、麻薬取締官という職業を知ったのです。国家公務員Ⅱ種合格者か薬剤師国家試験合格者ならば受験できるというから、私でも受けられる。それからは「薬物捜査ってどんなことをするんだろう?」「薬物乱用者って一体どんな人たちなんだろう?」といろんな想像が膨らみ、説明会で話を聞いたらますます興味が高まり、受験を決意。募集は1人だけでしたが、何とか合格しました。

Q:仕事のどういった部分にやりがいを感じますか?

A:薬物にはまると自力ではなかなかやめられなくなります。再犯率も高く、逮捕した時も、「この人はまたやるんじゃないだろうか」と疑いの目で見てしまうことがあります。だから、かつて逮捕した人が薬物と縁を切り、社会復帰したと聞くと、とてもうれしくなります。「あの時あなたが私を捕まえてくれて本当によかった」と直々に感謝されることもあり、そんな時は私も少しは人の役に立っているのかなと思いますね。

Q:つらいのはどんな時ですか?

A:肉体的には内偵が、精神的には取り調べがつらいです。相手も人間なので、こちらの思惑どおりに認めてくれるようなことはまずありません。「次に何を聞こう」「こう言われたらどう切り出そう」とその場その場でギリギリの判断をしながら粘り強く取り調べる以外にないのですが、そういう時にものすごい重圧を感じます。終わってからも、あの時こうすればよかったと思い返すことが多く、つくづく難しい仕事だなと思っています。

Q:女性の麻薬取締官はこれからもっと必要になりますか?

A:女性の被疑者が増えていますから、それにつれて必要性は高まっているように感じます。現在麻薬取締官の約15%が女性ですが、今後はもっと女性比率が増えていくと思います。

■なるには?

受験資格は①国家公務員試験Ⅱ種試験の1次試験合格者(ただしⅡ種最終合格が採用条件)②薬剤師、薬剤師国家試験合格者または合格見込み者で29歳以下の者。採用面接試験により採用を決定する。薬物や法律の知識が必要なため大学で薬学や法学を専攻していることが望ましいが、他の専攻でも問題はない。

海上保安官(潜水士)

人命救助の仕事に対する熱意が海に潜る覚悟を生みます

海上保安庁 清水海上保安部 巡視船おきつ 首席航海士

Q:海上保安庁というのは何をするところですか?

A:海上保安庁は、海上における船舶の航行安全、海難救助、犯罪捜査、環境保全、災害対応など、海の安全を守ることを任務としています。職員は、海上保安学校や海上保安大学校などの採用試験に合格し、訓練を受けた後、任務につきます。

Q:潜水士はどんな仕事ですか?

A:潜水士は、映画『海猿』で話題になりましたが、海中へ潜って人命救助を行う仕事で、希望し選抜された職員が潜水研修を受けて潜水士となります。潜水業務は、海中転落者の捜索・救助、転覆船からの人命救助などの海難救助のほかに、衝突事故などが起きた時の海面下の船体調査、犯罪に使用された証拠物品の海中捜索など多岐にわたります。また潜水業務だけでなく、操船やエンジンの保守、通信、調理など船員としての業務も分担していて、私は操船を担当しています。

Q:どうして海上保安官になったのですか?

A:どの大学を受験しようかと大学名鑑を眺めていて、星を二つ重ねたような校章が目に留まりました。それが海上保安大学校でした。中学生の頃、人の命に関わる仕事に興味があり、消防士になりたかったこと、高校時代は、夏休みのたびに友達と数時間電車に揺られて海に行きシュノーケリングをするほど、海が好きだったこと。「人の命」と「海」というキーワードがつながり、海上保安官になりました。

Q:潜水士になるために運動能力は必要ですか?

A:私の場合、運動は嫌いじゃないという程度でしたが、海上保安大学校の入試や入学後の授業は問題なくついていけました。ただし潜水士になるためには運動能力と体力が必要です。私が所属する第三管区では、潜水研修を受ける前に、まず体力検定を受け、20人くらいの希望者のなかで1番か2番にならなければいけません。私は大学校1年の時から筋トレや走りこみをして準備をしました。潜水研修も、おもりを持ったまま海に浮く、2分半息を止めるなど、とてもキツいものでした。でも、私もそうでしたが、最初から運動が得意でなくても、仕事に対する熱意があれば乗り越えられると思います。

Q:仕事をしていて、どんな時にやりがいを感じますか?

A:人命救助を現場の最前線で行えることが大きなやりがいです。潜水業務に限らず、漂流したヨットにロープをかけて引っ張るといった水中以外の作業でも人を救助することがあり、助かった人を見た時は心の底からよかったと感じます。また、毎日の厳しい訓練や乗組員同士の意見の衝突などを経て、船全体で一致団結して人命救助という一つの目的に向かう時の緊張感、そして目的を無事に完遂した時の達成感は何物にも代えられないものがあります。

Q:どんなところがつらいですか?

A:海難が発生したらすぐに船を出して現場に急行しなければなりません。仕事が休みの日でもなかなか遠出ができないのは残念です。また体が第一なので、勤務時間外でも体を鍛えたり、体調管理や食事に気を使う必要もあります。2、3年ごとに転勤があることも最初はストレスになっていましたが、最近は、様々な土地に行けることが楽しみになりました。

Q:潜水士に必要なのはどんな力ですか?

A:まず仕事に対する熱意です。そこから海のプロとしての自信や覚悟が生まれます。また、巡視船というチームで動くので、コミュニケーション能力も必要です。海中では言葉を交わせないので、事前にしっかり作業計画を立てたうえで、アイコンタクトや手信号を使うのですが、普段のコミュニケーションが上手な人は水中でも上手にコミュニケーションがとれるようです。海上保安庁に興味のある人は、海上保安庁に関係するニュースに注目して、海上保安庁がどんなことをしているのか知っておくといいと思います。

■なるには?

海上保安学校(1年、または2年)や海上保安大学校(4年6カ月)の採用試験に合格し、訓練を受ける。受験資格は、高校卒業または卒業見込みで、海上保安学校なら入学する年の4月1日現在に21歳未満、海上保安大学校なら同24歳未満の人。訓練中も給与がもらえる。

●小浜さんの標準的な1日(出港中の例)

出港中は、24時間対応態勢を確保するため、3直交代制で1日に4時間×2回の勤務時間がある。勤務時間外でも、海難など緊急事案発生時は、対応にあたる

消防士（救急救命士）

火災も救急も夜中の出場は当たり前。でも最前線の仕事が私は好きです

横浜市安全管理局 旭消防署警備第一課救急係

Q:消防と救急とどちらの活動がメインですか?

A:私は救急救命士の資格をもっているので、多くは救急隊として勤務しますが、人員の状況などによって消防隊としても勤務します。部隊編成は毎朝決定されるのですが、それによってその日の役割が決まるのです。救急隊の活動は、横浜市の場合、傷病者の重傷度や緊急度に応じて出場規模を決めていますが、多くの場合、救急車と救命活動車（ミニ消防車）の2台、4人の活動となります。私はどちらかの車に乗り、救急隊長の指示に従って動きます。現場に着いたらバイタルサイン（脈拍、呼吸、体温、血圧など）を確認したり、搬送の補助などをします。車両に乗り込んだら傷病者や家族から症状についての情報を収集し、必要な処置を行います。心肺停止状態の方などへの対処は、救急救命士の資格をもっていればこそです。

Q:火災が発生した時の対応を教えて下さい

A:まずは署内に災害出場の指令が流れます。急いでガレージに降り、災害種別や住所が記された指令書を受け取り、防火服を着ます。地図で場所を確認して消防車に乗り込み、活動方針を検討しつつ現場に急行。通常、部隊のメンバーは消防隊長、運転やポンプ操作をする機関員、放水を指揮する放水長、それに隊員1～2人という編成ですが、その日の部隊編成によっては私が放水長を任されることもあります。隊長が決めた方針に従って放水を指揮する役割です。出火状況や風向き、建物の形状、隣家への延焼の危険性などを考えて放水の場所や水の強さを決め、指示を出しつつ私も放水を行います。ホースは結構重く、最初は慣れずに戸惑いましたが、訓練を重ねることで扱えるようになりました。

Q:なぜ消防士になったのですか?

A:私は消防士よりも先に救急救命士にあこがれました。小さい頃から医療に関心があり、高校の時たまたま兄に届いた情報誌でこの資格を知りました。傷病者を病院で待つのではなく、救急現場の最前線に出向いて活躍するところに興味をそそられ、専門学校で勉強をしました。この資格がストレートに生かせるのは消防の救急隊なので、同期生も9割は消防士になったのですが、私も同じ道に進んだということです。

Q:お仕事のどんなところにやりがいを感じますか?

A:出場していろいろな方々に「ありがとう」と言っていただくと、消防職員になってよかったなあとつくづく感じます。火災も救急も災害ごとに現場の状況がまったく違うので、毎回毎回工夫して臨機応変に対応しなければなりません。大変ですが、それもやりがいになっていますね。それと、私たちを見ると子どもたちがよく手を振ってくれるんです。そういうのも単純にうれしいですね（笑）。

Q:つらいのはどんな時ですか?

A:24時間勤務し（当直）、24時間休み（非直）、また24時間勤務するという消防士の勤務サイクルに慣れるまでに少し時間がかかりました。いつ指令が入るかわからないから新人の頃は一日中緊張していましたが、それでは体がもたないことがわかり、だいぶコントロールできるようになりました。ただ救急は夜中に出場が連続することがあり、一睡もできないようなこともあるので、そういう時はしんどいですね。

Q:消防士や救急救命士を目指す人へメッセージを

A:消防も救急も現場では女性への期待が高まっていると思います。でも当然、体力は男性より劣りますから、目指したい女性は入ってからも努力を続ける覚悟が必要でしょう。私も体力をつけるために、自らベンチプレスやランニングをしています。また救急救命士に認められる医療行為は拡大する傾向にあるので、継続的な勉強が必要です。それだけ重要度が増している仕事なので、やりがいも大きいと思いますね。

■なるには?

消防士は市町村の消防本部に所属する。なるには市町村ごとに行う職員採用試験を受験する。大学卒業程度、高校卒業程度など2～3区分で採用するところが多い。筆記試験、面接、体力検査などが課される。採用された後、消防学校で半年間程度、知識の習得や訓練を積み、各消防署などに配属される。

●中畑さんの標準的な1日（当直）

- 8:30 勤務開始
- 火災などで出場する以外は、車両や資機材の点検、トレーニング、事務処理など。一般の建物の立入検査（消防用設備や防火管理状況の検査）なども
- 22:00～6:00 仮眠をとりながら交代で受付監視業務等を実施
- 8:30 勤務終了

セキュリティスタッフ

社会の安全に貢献していることを強く実感できます

セコム株式会社 東京本部・九段支社 BE(ビートエンジニア)

Q:お仕事内容を教えてください

A:お客様の建物に取り付けられた当社の各種センサーが異常を感知すると、セコムのコントロールセンターに信号が送信されます。センターにいる管制員の指示を受けて現場に急行し、被害を最小限にくいとめるための対応をするのが私の仕事。当社では「ビートエンジニア」と呼ばれています。「ビート」は、英語で「駆けつける」「巡回する」という意味。またセンサーなどセキュリティ機器の説明やメンテナンスも行う点を「エンジニア」としています。

不審者の逮捕が目的ではないので、身体を鍛える訓練ばかりしているわけではありません。現場に駆けつけたら、状況を確認・点検して、不審者が侵入している可能性をみつけた場合は、コントロールセンターの判断をあおいだうえで警察に通報し、到着した警察に状況を説明する、というのが基本的な仕事の流れです。

Q:どうしてビートエンジニアを志望したのですか?

A:高校生の時に飲食店の接客、大学生の時に家具店のお客様対応係のアルバイトをしていました。その経験から、お客様と接する仕事がしたいと考え、営業職志望で就職活動を行いました。当社を志望したのは、企業理念に共感したからです。高齢化が今後も進展していくなかで、ますますセキュリティが重要になるだろうという考えもありました。

Q:ビートエンジニアの仕事に接客の要素があるのですか?

A:接客はとても大切な要素です。たとえばホームセキュリティなら、ご自宅に設置されたセンサーが異常を感知した場合、現場でお客様とお会いすることになります。その時、ビートエンジニアとして毅然とした態度も必要ですが、不安になっているお客様に安心していただけるようなていねいな対応も非常に重要です。いくらセキュリティ機器が発達しても、最終的にお客様のもとに駆けつけて安全を守るのは人間だ、と当社では考えています。

Q:ホームセキュリティの需要は増えているのですか?

A:家庭向けのセキュリティは81年からサービスを開始していますが、90年代後半から契約数が伸びました。契約者の内訳も、以前は高齢者が中心だったのが、最近は40代、30代と広がっています。核家族化、高齢化が進んだことに加えて、「安全を買う」という意識が浸透してきたようです。現在、当社のホームセキュリティは、全国で約44万8000件のご契約をいただいています。

Q:仕事をしていて、どんな時にやりがいを感じますか?

A:やはりお客様に「ありがとう」と感謝されるとうれしいし、ますます頑張ろうと思えます。特に印象に残っているのは、あるビルに急行したときのことです。夜中から昼近くまで、お客様のもとで緊急対処を行い、後日、感謝の手紙をいただいて感激しました。私たちはお客様が不安になっているところに駆けつけるので、直接お礼の言葉を言われたりお手紙をいただいたりすることも多く、直接的に社会に貢献していると実感できます。また、使命感をもった先輩が職場に多いことも、やる気につながっています。

Q:ビートエンジニアとして心がけていることはなんですか?

A:当然ですが、人の道を外れぬよう、常に誠意ある行動を心がけています。1人が悪いことをすると、会社の信頼が損なわれてしまいますから。実は学生時代、目の前でひったくり事件が起きたのに、びっくりして追いかけられなかったことがあって、それをとても後悔しています。だからよけいに、日頃から強い正義感をもって生活していきたいと考えるのかもしれませんね。

また、チームワークも大切です。支社の仲間と情報を共有して、社会に「安全・安心」を提供し続けていきます。

■なるには?

警備会社に入社する際、学歴や資格は特に問われない。警備員になった後、研修を受けるなどすると、警備員の国家資格を得られる。資格には、施設警備業務、交通誘導警備業務、雑踏警備業務、貴重品運搬警備業務、核燃料物質等危険物運搬警備業務、空港保安警備業務の種別がある。

●菊池さんの標準的な1日(夜勤)

18:30 出社 — 準備 — 19:00 始業 — 勤務時間中は事務処理やセキュリティ機器の勉強などをしながら待機。指示があれば出動し、現場に駆けつける。これは夜勤のスケジュールで、日勤もある — 8:00 退勤

児童福祉司

子どもや保護者と同じ目線に立って問題の解決策を探ります

東京都児童相談センター 相談処遇課 児童福祉司

Q:児童福祉司とはどんな仕事ですか?

A:児童相談所には、18歳未満の子どもに関する様々な相談が寄せられます。その内容は、保護者の病気・死亡・家出・離婚などの事情により家庭で生活できなくなった子どもの養護相談、知的・身体障害相談、非行相談、いじめや不登校といった育成相談など。それらの相談に応じ、子どもや保護者に寄り添って、ほかの専門スタッフや関係機関と共に問題を解決するのが児童福祉司です。相談内容が幅広いので、仕事内容も毎日違います。乳児院や児童養護施設にいる子どもと会ったり、家庭訪問して保護者と面接したり。年間100件以上のケースを抱えています。

Q:特に大変なケースはありますか?

A:最近、問題が深刻化している児童虐待は、死亡につながることもありますから、見立てと関わり方には非常に神経を使います。見立てとは、ケースが虐待に該当するか、緊急性があるのか、といった状況を判断することです。虐待の通告があっても調査したら虐待ではなかったということもあります。もちろん、子どもの安全が第一なので、通告があれば一刻も早く調査して、相談所全体で対応を協議することになります。

Q:仕事をするうえでどんなことを大切にしていますか?

A:まずは、相談相手と同じ目線に立って話を聞くことです。虐待の場合でも相手にとって何が悩みなのか、面接のなかでじっくり耳を傾けていくと、最初の相談の裏に経済的な問題があったり、親族との問題があったりもします。時には虐待を認めない保護者の方と摩擦が生じることもありますが、最終的に信頼を得られるよう、真摯に向き合っていきます。

Q:印象に残っているケースはありますか?

A:0歳の時から施設で育った7歳の子どもがいました。お母さんはずっと行方不明だったのですが、調査したら居場所がわかったんです。手紙を出したら返事が来て、お母さんが会いに来ました。もうお母さんはボロボロ泣いて何もしゃべれないんだけど、子どもはにこにこしていて。「子どもを捨てた母親」という見方もあると思いますが、子どもにとって、お母さんがいる、とわかることはとても大切なんですね。そういう再会の場面や、以前に相談に来た保護者とその子どもが順調に生活している様子を見るとやりがいを感じます。

Q:どうして児童福祉司になったのですか?

A:高校時代は警察官になりたかったのですが、採用試験に落ち、警察に近い仕事だと教えられた刑務官になりました。拘置所に勤務するなかで、幼少期から家庭の事情があって犯罪に至るという形を多く見て、幼少の頃から関われば犯罪が減るのではないかと考えたのが、児童福祉の仕事を目指したきっかけです。それで仕事を辞めて保育士の資格を取り、東京都に就職。15年ほど福祉の現場を回って、4年前に児童福祉司になりました。いろいろな福祉の現場を経験したことは、今の仕事に生きています。頭で考えるだけだとケースワーク(社会福祉援助)ってできないんですよね。「知的障害をおもちの方なら、このようなサービスがありますよ」「こういう場合は生活保護が受けられますよ」という情報を、自分の経験を踏まえて話せることは自信につながっています。また、これまでの相談業務を通じて、いろいろな人の生き方に触れた経験は私のかけがえのない財産になっています。相談にいらした方にも、「いろんな人がいて、いろんな人生があるんだよ」と私なりに伝えていきたいと思っています。

Q:目指す人へのメッセージをお願いします

A:まず自分を好きでいてほしいと思います。今、自分を否定する子どもが多いんですよ。自分なんて何もできないとか、やってもどうせダメだとか。そうではなく、自分をほめてあげて、受け止めてあげると、人に対しても優しい気持ちになれます。

■なるには?

大学で心理学、教育学、社会学を専攻して卒業するか、厚生労働大臣指定の講習会を修了するなどすると、児童福祉司の任用資格が得られる。ただし、実際に働くためには、地方公務員になる必要がある。地方公務員試験に合格し、児童福祉施設などを経験した後、児童福祉司となることが多い。

●奥村さんの標準的な1日

- 9:00 出勤 — 子どもや保護者との面接、警察に保護された子どもを地元まで送るなど業務は様々
- 12:00 — 虐待通告があると予定を変更してそちらに対応する
- 17:45 終業 — 報告書作成や学校帰りの子どもとの面接など残業もある

工場安全管理

工場内の事故を未然に防ぐのは働く人の意識です

新日本製鐵株式会社 名古屋製鐵所 薄板工場

Q:どんなお仕事をしているのですか?

A:鉄の薄板をつくる工場で、「熱延仕上」という工程を担当しています。スラブという巨大なかまぼこ板のような鉄を7機のローラーで薄くして、お客様の注文どおりの寸法にするんです。機械は全長が300メートルくらいある大きなもので、そこに取り付けられたたくさんのセンサーや計測装置から、近くにある操作室にデータが送られます。私は操作室でデータを監視して、必要に応じて調整を加えます。できあがった薄板は、自動車のボディやホイールなどの部品になったり、スチール缶になったりと、いろいろなところで使われています。また、薄板工場の若手社員が3年前に結成した「薄板若手会」の会長として、安全意識を高める活動もしています。

Q:どうして安全の意識が大切なのですか?

A:製鉄所の機械は大きく、頭上にもクレーンなどがありますし、スラブは1000度を超える熱さなので、機械にはさまれたり巻き込まれたりすれば重大な事故につながります。事故を防ぐために、安全柵を設置するなどの対策もしていますが、一番大切なのは働く人の意識です。気を引き締め、やるべきこととやってはいけないことのルールをきっちり守らなければ事故を防げません。特に今、工場の世代交代が活発で、従業員約600人のうち140人くらいが、26歳の私より若い社員なんです。彼らが「ちょっとくらい大丈夫」と考えて作業することがないよう、安全意識を喚起しています。

Q:安全のためにどんなことをしていますか?

A:今、若手会は、職場をきれいにする活動に力を入れています。職場が汚いと、落ちているものにつまずいたりして危険ですから。また新人は、作業服の上から安全チョッキを着て、ヘルメットも通常の黄色からオレンジに変え、「新人なので注意して見てください」というアピールをしています。さらに、工場長や工場の安全管理者によるパトロールに、若手会が自主的に参加して、自分の担当以外の職場を見て回るクロスパトロールを行っています。客観的な視点で危険な箇所を発見する機会になりますし、回る側にとっても勉強になります。

Q:どうしてこの仕事についたのですか?

A:高校で鉄の製造工程を勉強して興味をもったからです。鉄鉱石などの原料を熱したり延ばしたりして変化させて、ジュースの缶や自動車などの身近なものから、橋やビルなど大きなものまでつくっている工程を知り、おもしろいと思いました。なかでも社会見学で製鉄所に行ったときに見た、真っ赤な鉄がものすごい速さで流れてくる光景は印象的でした。

Q:就職して意外だったことはありますか?

A:仕事につく前は、機械が自動で作業を進めていて、オペレーターは監視するだけだと思っていました。でも実際は、オペレーターの手動操作がとても多く、技術が未熟だとトラブルが発生するので、考えていた以上に難しい仕事です。鉄は「生き物」と言われるほど、曲がったり膨らんだりと変化に富んでいます。毎回同じものを同じように作るわけではないので勉強の連続ですが、それがやりがいでもあります。

Q:仕事にはどんな力が必要ですか?

A:普段は快適な温度の操作室にいますが、メンテナンスなど機械の近くで体を動かす仕事もありますから、体力が必要です。特に夏はすぐに汗びっしょりになるほど暑くて大変。体力がないと、意識を集中させて安全に作業することができません。私は中学・高校と駅伝部だったことが土台となって、体力的にも精神的にも頑張れています。ちなみに駅伝は今も続けています。製鉄所内に駅伝や野球、サッカーなどの部活があって、工場対抗の大会もあるんです。協力して製品を作るためにチームワークが必要なので、日頃からスポーツでつながりを強めています。

■なるには?

林業、鉱業、建設業、運送業、製造業などの事業場では、労働安全衛生法により、業種や規模に応じて総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者の選任が義務付けられている。安全管理者になるには、学歴に応じて2〜7年の実務経験が必要だ。

●林さんの標準的な1日

- 14:30 出社
- 準備
- 15:00 始業
- 工場は24時間稼働しているので、7時〜、15時〜、23時〜のシフトをローテーションする3交代制。機械のそばにある操作室でオペレーション業務に携わる
- 23:00 退社

農林水産省行政官

食品の安全を守る仕事にミスは許されない。日々プレッシャーを感じます

農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 農薬対策室 課長補佐

Q:農薬対策室というのは何をするところですか?

A:農薬については国として様々な対策を立てていますが、そのひとつが「登録制度」。農薬はその安全性を確保するため、基本的に製造、輸入、販売する際には、農林水産大臣による登録を受けなくてはなりません。制度は古くからありますが、登録時に求めるべき安全の基準は時代とともに変化しています。科学の進歩で知見が増え、考えなければいけないことが増えているからです。人への影響のみならず家畜、土壌、水環境などにも配慮し、各々について年々高い水準が求められるようになっています。そうした基準を見直し、制度をきちんと運用することが農薬対策室の主な仕事です。私は部署全体への目配りや調整をするとともに、農薬の国際問題にも対応しています。農薬は国際的に流通する商品なので、国際間での連携も欠かせません。国際会議に出て意見交換をしたり、各国政府機関と日々メールで情報交換をしています。

Q:無農薬が注目されていますが、農薬はまだ必要ですか?

A:十分な生産量と今のような様々な種類の食品を食べようとするなら、農薬を使わないわけにはいきません。りんごのように農薬を使わなければほぼ作れない作物もありますし、「虫の食った野菜でもいい」という消費者は多くないでしょう。農薬を使っている現在でも日本の食料自給率は40%。これより下げるわけにはいきません。

Q:最初から公務員志望だったのですか?

A:ずっと研究者志望で、本当は大学院のドクターコース(博士後期課程)に進みたかったのですが、同じ研究室の私より優秀な人が進学を予定していたため、私は違う道を探さなければいけなくなりました。就職が厳しい時代で、民間を回るとともに国家公務員I種も受験。運よく合格し、農林水産省の研究所で働くことを夢見て同省に入ったのですが、ふたを開けてみると私の職種は「研究職」ではなく「行政職」。人事担当者に噛みつくと、「だって君みたいにおしゃべりで、人間が好きな人を研究所に置いておくのはもったいないだろ。君みたいな人こそ行政職にならなければ」と諭されました。今となっては自分としても納得することが多く、そんなふうに見ていた人事を感心したりもしますが、当時はとても不本意な気持ちでしたね。

Q:仕事をしていて、どんな時にやりがいを感じますか?

A:安全に関わる仕事はどれもそうかもしれませんが、判断ミスが許されないので、いつもプレッシャーを感じています。何事も「これでいい?」「本当に大丈夫?」とつねに自分に問いかけながら仕事を進めるように心がけています。そうした私たちの取り組みによっていい農業ができ、消費者の方々が安全な食品を口にできるようになると考えればそれはすごくやりがいになるし、つらさも吹き飛びますね。

Q:どんなところがつらいですか?

A:責任が重い点と、もうひとつは体力勝負のところです。当初、公務員ならば男女差なく働けると思い、嫌々ながらも入省を決めたのですが、入ってみると正にそのとおり。逆にいえば配慮してもらえることもなく、「女の子は早く帰りなさい」といわれたことは一度もありません。本当に忙しい時はコピー機の前で徹夜したり、机で寝たり。男女平等はうれしい反面、つらいな〜と思うこともあります。

Q:食品の安全に関わりたい人は何を学んでおくべきですか?

A:強いていえば、化学か微生物の基礎知識はあったほうがいいかもしれません。亀の子(化学構造式)を見て鳥肌が立つような人は向いていないかも…。それよりも、いろんな人と接し、いろんな経験を積むことのほうが、こういう組織で働くうえでは重要だと思います。大学・大学院と6年間オーケストラをやっていたことが今生きていると私は思っています。

■なるには?

国家公務員になるには、まずは国家公務員試験を受験する必要がある。I種(大学卒業段階の知識・技術およびその応用能力を必要とする程度)、II種(大学卒業程度)、III種(高校卒業程度)が主な試験だ。合格後に希望する官庁を訪問し、面接等を受けて採用が決まる。

●堀部さんの標準的な1日

- 9:30 出勤
- AM:メールチェックの後、部下からの様々な報告・相談に対応。自分の仕事の調べものなども
- 12:00
- PM:海外が動き出すため、午後は国際対応も増える。各国とメールのやりとりなどをすることも
- 20:00〜21:00 退勤

自動車開発（運転支援安全システム）

車のプロとして世のため人のための技術開発を続けたいです

富士重工業株式会社 スバル技術本部 電子技術部 主査

Q:自動車の安全技術にはどのようなものがありますか?

A:まず、「走る」「曲がる」「止まる」という自動車の基本性能を磨き、「まっすぐ走れる」「思ったとおりにハンドルが切れる」といった部分を向上させ、加えて横滑り防止やABSなどの電子制御による安全技術が普及したのが90年代。2000年代には、事故が起きた時の被害を軽減する、より進んだ衝突安全技術が市販車に搭載され始めました。そして現在は、そもそも事故を起こさないための運転支援システムと呼ばれる先進技術が市販車に搭載され始めています。事故原因のほとんどは、よそ見など運転者の不注意によるものですが、それをどう防ぐのか。私が開発に携わっている「アイサイト」は、2つのカメラを使って自動車が走行環境を認識し、能動的に様々なアシストを行って運転者を補助します。例えば前の車に近づきすぎたらブレーキングを促すといったことですね。レーダーを使って周りを認識する技術もありますが、カメラのほうがものの形をはっきり把握できるので、かなり手前から前方の物体が何か認識し、適切な動きをとれます。

Q:開発はどのように進めるのですか?

A:プロジェクトによって違いますが、現在のアイサイトは、試作品を作って社内の人によさを理解してもらい、新車開発のプロジェクトに採用するよう提案するところから始まりました。採用されたら車種に合わせて制御を作り上げます。交通事故を減らすため、今後アイサイトを幅広く普及できればと考えています。

Q:最初から開発者志望だったのですか?

A:高校時代は新聞記者になりたかったんですよ。でも就職活動をする頃には、現場の第一線で実際にものに触ったり人と接したりする仕事がおもしろそうだという考えに変わっていて、なかでも小さな回路をいじるより大きなものを扱うほうが向いていそうだと考え、車の会社に入りました。

Q:学生時代の経験で仕事に役立っていることはありますか?

A:数学と物理をもっと勉強すればよかったと思っています。学校の勉強が社会で役に立たないなんてとんでもない。とても重要です。私は入社してから「まずい」と感じ、教科書を復習しました。今の新人には早い段階で戦力となるような基礎力が求められているので、なおさら勉強が必要でしょう。

Q:仕事をしていて、どんな時にやりがいを感じますか?

A:お客様にどういった運転支援システムを提供すべきか考え、実現するためのソフトウエアや半導体を全部自分たちで設計しています。それを実際にお客様に届けられたのは大きなやりがいです。またアイサイトは、カメラを使い100メートルくらい先のものもみつけ、車を制御する技術で、世界でもスバルしかもっていません。そういうほかにない高い技術力をもった製品に関われるのもおもしろさがあります。そして、その仕事により自動車の安全性向上に貢献できる点も重要です。働いてお金をもらう「プロ」として、今後も世のため人のためになることをやり続けたいと考えています。

Q:開発者を目指す人はどんな力を身につけるべきですか?

A:技術はとても奥が深いので、まずは与えられた仕事に徹底的に取り組んでほしい。そしていつかは、まだ世の中にないものを作る仕事を目指してほしいと思います。自動車なら、基本性能に付加する「ハイブリッド」「安全技術」は比較的新しい分野ですが、今後はもっと新しい技術が出てくるでしょう。新しい技術を開発するために必要なのは、やる気と根性です。新しいものを作るのに、決まったやり方だけやっていてもダメ。ない道を探すのです。与えられた課題に対して数限りないトライをして、最適な道をみつけて、その先にあった課題に対してまた数限りないトライをして…。それを徹底的に繰り返すためのやる気と根性が、開発者として第一線で活躍できるかどうかの分岐点になると思います。

■なるには?

大学の工学部などで電気系や機械系を勉強し、自動車会社に就職する。開発者を目指すなら大学院を修了したほうがいい。また難関の採用試験を通って就職しても、希望する特定の部署に配属されるとは限らない点は心しておきたい。

●柴田さんの標準的な1日

- 8:00 出社
- マネジャー職なので、ミーティングやデスクワークに追われる日が多い。一方、走行試験など、現場での立ち合いが続く日もある
- 17:00 定時
- 時期によっては残業で遅くなることも多々ある
- 22:00 退社

インターネットセキュリティ

2.5秒に1つ生じる新しいウイルスを先読みして退治します

トレンドマイクロ株式会社 サポートサービス本部
コアテクノロジーサポートグループ Threat Monitoring Center 課長

Q:そもそもウイルスの何が怖いんですか?

A:インターネットウイルスは03年を境に変わったと言われています。それまではウイルスを作ること自体が目的で、作る側が技術力を誇示するために、派手なアクションを仕込むことが多かったんですね。だから感染するとすぐにわかったんですけど、今のウイルスは感染していることがわかりにくいんです。こっそりパソコンに入り込んで、オンラインショッピングをするために入力したクレジットカードや銀行口座の情報をパソコンの外に流す。その情報を悪い人が利用して預金を盗み出すという構図ができあがっています。金儲けの手段としてウイルスを作るのですから、作る側は技術力を駆使して、できるだけみつからず長期間にわたってパソコンに滞在できるウイルスを作っています。

Q:ウイルスに対抗するためどんな仕事をしているのですか?

A:ウイルスは日々未知のものが出てきます。それらに対抗するために、未知のウイルスを自動収集するプログラムを開発し、収集したウイルスの傾向を分析して、「こういう技術が必要だ」とソリューション技術を研究するのが私の仕事です。この部門は07年に新設されました。というのも、その頃、ウイルス感染の傾向が変化したんです。以前は大きな被害をもたらすウイルスは、世界中で流行しました。それも怖いのですが、一度対策ができれば全世界で有効だとも言えるわけです。でも今の脅威は「地域化」といって、日本だけではやる。ひとつの企業や団体だけで猛威をふるってほかに現れないものもあります。だから当社では、地域ごとに研究機関を置いて、地域に密着した形でウイルスを収集しています。また私は、情報収集のほかに、広くウイルスの脅威を知ってもらうための活動として、セミナーの講師や、雑誌やインターネットに載せる記事の執筆なども行っています。

Q:どうしてこの仕事につこうと思ったんですか?

A:大学時代、研究室のネットワークを構築する仕事を任されました。それでネットワークやサーバーなどを構築して人に提供するのがすごく楽しいと気づいて、IT企業に入社。業務でインターネットセキュリティに関わるようになり、「毎日増え続けるウイルスにどうやって対応しているんだろう」と興味がわいて当社に転職しました。

Q:仕事をするうえでどんな力が必要ですか?

A:08年に発生した未知の不正プログラムの数を算出すると、2.5秒に1個発生している計算になります。それほど次から次に新しいものが出てくる状況では、今使っている考え方がいつ使えなくなるかわかりません。だから既成概念にとらわれずゼロから考えられる柔軟性が重要です。私は、いろいろな業界の人に会って自分の価値観を広げるようにしています。もう1つ必要なのは、本質を見抜く力です。もし新しいウイルスに一つひとつ対応するなら、2.5秒に1個のペースで対策を出すことになります。それは現実的ではないので、今後どういう脅威が主流になるか先読みし、新しいウイルスがみつかる前に対応することが必要です。だからウイルスのうわべの動きに惑わされず、本質を考える力が大切なんです。高校生は、選り好みをせずいろんなことに挑戦して価値観を広げること、何ごとも本質を考えることを心がけるといいのではないでしょうか。

Q:仕事をしていて、どんな時にやりがいを感じますか?

A:未知の脅威への対策というのは、誰も見たことがない最先端の領域です。まだ誰も踏み込んでいないところを先頭を切って進むのは、責任も感じますが、やはり大きなやりがいです。また、人のためになっているというやりがいもあります。インターネットは本当に便利で、世界の人々を裕福にする可能性を秘めて日々進化しています。そういう技術を多くの人に安全に使ってもらいたいと思っています。

■なるには?

大学や専門学校などで、コンピュータやネットワークについて学ぶのが第一歩。セキュリティの仕事は、製品開発、プログラミング、システム構築、コンサルティングなど幅広いので、興味のある方向へ勉強を進めて就職する。業界内では転職も活発に行われている。

●飯田さんの標準的な1日

- 9:00 出社
- メールチェック、部下からの報告を受けてディスカッション、顧客企業への提案など
- 12:00
- セミナーの講師、記事の執筆、欧米やアジアのスタッフとのミーティングなど
- 21:00 帰宅